

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0615 ◆◆◆

20/12/23

【 2020年の為替・金融業界 10大ニュース 】

今年も残りわずかなるなか、今回の当レターでは年末恒例である筆者の独断と偏見で選出した今年一年の「為替・金融業界 10大ニュース」を報じてみたい。読者の皆さんの考えるニュースは果たしてランクインしているだろうか。

◎今年「新型コロナウイルス」の話題が席卷、明るい話題に乏しい一年だった

まずは筆者の考える「為替・金融業界 10大ニュース」を以下ですべて列挙、そのあとで簡単な解説や講評などを記してみたい。

- 1;世界を陥れた「コロナパニック」、各国とも社会・政治・経済・スポーツ情勢などが大混乱
- 2;NYダウが史上最高値を更新し3万ドル台へ、ナスダックなども同様に史上最高値を更新
- 3;大混乱となった米大統領選、バイデン新大統領決定もトランプ氏は敗北認めず
- 4;暗号資産ビットコインが初めて2万ドル突破、一時24000ドル台も
- 5;貿易問題のほか南シナ海や香港、台湾、ウイグル情勢などめぐり「米中対立」がさらに激化
- 6;ドル/円相場の年間変動率は10.15%、4年連続の小動きに
- 7;中国がアチコチで横暴行為、対日・豪・印・加などとそれぞれ外交的な対立も
- 8;英国がEUを離脱、ただ通商交渉などをめぐり、いまだ議論は紛糾中
- 9;歴代最長在任期間記録樹立の安倍首相が体調不良で退任、後任に菅官房長官
- 10;東京オリンピック・パラリンピックが一年延期に

番外;「東証がシステム障害で終日売買停止」、「ゴーン被告に不正出国容疑」、「大阪都構想、住民投票で反対多数」、「映画『鬼滅の刃』が大ヒット」、「韓国、元徴用工訴訟で資産差し押さえ手続き」、「野村克也さん、志村けんさん、渡哲也さん、マラドーナなど各国著名人の死去相次ぐ」、「山手線に高輪ゲートウェイ駅が開業」、「トランプ米大統領、史上3例目の弾劾裁判で無罪に」、「黒人差別の抗議が世界に拡大」、「将棋の藤井棋聖、最年少で二冠獲得」――(順不同、敬称略)

――改めて指摘するまでもなく、今年「新型コロナウイルス」に振り回された一年で、やや言い過ぎを覚悟でいえば「ニュースはそれだけ」と言って間違いないのかもしれない。そんな「新型コロナ」が、多くの方にとって今年のトップニュースであることは疑いないと思われるものの、あまりに関連ニュースが多いため、筆者の場合には、それらすべてをひっくるめて「コロナパニック」とさせていただいた。細かく分類すれば、「WHOがパンデミックを表明」したことや、「発生起源をめぐる問題」などのほか、ワクチン開発やその接種、第2波や第3波といった感染拡大について。さらに最近になって台頭している「変異種」の話など、枚挙に暇がないほどだ。それだけでベスト10がすべて埋まってしまう。

また、金融と絡めた話を少しだけすれば、NYダウなどが「コロナパニック」を受けて、史上最大の下げ幅ならびに、同上げ幅を記録している。金融市場にも大きな傷跡をアチコチ残しただけでなく、いまだ継続しているものも少なくない。感染そのものはいまだ蔓延しているものだけに、少なくとも来年の前半ぐらいまでは、その影響が懸念されている。

一方、一連の「新型コロナウイルス」騒動に振り回された結果、通常の年であればトップニュースになるであろう「米大統領選」に絡む話題や「安倍首相の辞任」が今年には下位に沈む結果となった。

なお、ある意味致し方ないところもあるが、前記したように改めて一年を振り返ると、今年「驚くほど「明るいニュース」に乏しい年だった感」を否認しない。番外、圏外を含めても「将棋の藤井棋聖、最年少で二冠獲得」ぐらいではないだろうか。来年こそは、是非ともいまい少し明るいニュースを是非とも多く聞きたいものだと思っている。(了)

――注: 今年当レポートの休刊がありません。来週12月30日付もキチンと発行する予定ですので、引き続きよろしくお願いたします



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。



Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved



FX-newsletter